

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890101359
法人名	安寿会
事業所名	グループホームこうの
所在地	松山市河野別府179-1
自己評価作成日	平成29年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者、職員も地元の方が多い。自然に恵まれている。畑の収穫の楽しみがある。デイサービス・小規模と併設している為地域の方との交流が多い。趣味活動・行事等が活発である（俳句・生け花・陶芸・ちぎり絵・絵手紙折り紙など）地域の子供たちの交流がある。デイサービスの大浴場で2～3人の方と入浴できる。口腔体操を実施し口腔機能低下予防に努めている。認知機能低下予防（シナプソロジー）を行っている。希望があればパワーリハビリ（マシン）使用し機能訓練が出来る。利用者優先のケアを心がけそばに寄り添い傾聴するケアに心がけている。また利用者の要望・意見・不満等、職員全員また家族にも協力してもらい満足のいく方向へ日々努力するとともに、受容のみでなく全ての面で個々の利用者に対して、自立、予防介護への前向きなミーティングを行っている。

●法人変更に伴い、新たに重度化した場合における対応に係る指針を作成し、24時間協力医の往診や相談体制を確保している。現在、利用者家族から看取りの希望があり、今後は、家族の宿泊や食事も支援する予定がある。職員は、支援実施に向けて勉強会を実施したり、外部研修等を受けて勉強している。
●「帰りたい」気持ちが強い利用者について、歌を歌ったり散歩したりしている時には気持ちが落ち着くことが解り、職員は様子を観察しながら、隣りに座って一緒に歌う等して支援している。家族が遠方のため、来訪が少ない利用者がさみしい思いをしないように、必要時には職員がそとそばに居るようにしている。
●毎月カンファレンス時には、排泄の自立以外に、家族の支出を抑えることやゴミ削減という視点からも、排泄支援の方法を見直している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい の				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい と
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらい が
			3. 利用者の1/3くらい が				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらい が				3. 利用者の1/3くらい が
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらい が				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらい が
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらい が				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム こうの

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

前野 悦子

評価完了日

平成29年2月4日

自己 評価	外部 評価		実践状況	
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			理念を具体化して目標を立て目に触れる所に張り出し、意識の積み重ねで行動に移せるように日々努力している。	
			(外部評価)	
			今年度、法人変更があったが、理念は継続して掲げている。ユニットの出入り口の壁に、理念、年間目標、今月の目標、個人の年間目標を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			地域の夏祭り・文化祭に参加し地域に出かけたり、記念行事や地域交流会を開催し近所の方に来ている。また小学校、保育園と交流(施設訪問・七夕飾り・お遊戯会等)や福祉関係等の人材育成の協力のため実習生・福祉体験を受け入れている。	
			(外部評価)	
			地元からの利用者や職員が多い。公民館が隣りにあり、行事に参加する等して交流を継続している。地域交流会時には、「喫茶こうの」を地域に開放しており、利用者が友人や知人とお茶や会話を楽しむ機会にもなっている。習字や陶芸等、地域のボランティアを受け入れている。来年度は、公民館主催の1日サロンに参加したいと考えていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議等で認知症の人への理解や接し方の勉強会を行っている。また地域との交流の際認知症の方との関わりや対応を見て頂いている。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			小規模多機能居宅介護の職員や利用者・家族地域の方な どに参加してもらい、意見交換や質問を受けて検討してい る。	
			(外部評価)	
			事業所の活動内容や課題を報告して話し合っている。避難 訓練の実施について報告した際には、3月に行われる地域 防災訓練への参加をすすめてもらった。	今後は、さらに、地域からの参加者を増やして事業所の取り 組みを知ってもらったり、意見を聞いたりしたいと考えてい る。会議を通じて事業所や地域の課題を共有し、互いに協 力し合って取組みをすすめてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価)	
			北条地区の松山市地域密着型サービス連絡協議会に出席 し他施設との情報交換を行い質の向上に努めている	
			(外部評価)	
			大学生の介護実習、中学生の職場体験、小学生との交流会 を受け入れている。今後は、社協主催の勉強会時に、管理 者が講師となり「地域との関わりについて(認知症ケア)」講 演する予定がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束委員会を持ち毎月話し合いを持ち身体拘束をしな いケアに取り組んでいる。また勉強会を実施し正しく理解し ている。また玄関の施錠はしていない。(7時～20時)	
			(外部評価)	
			利用者の生活・排泄のリズムの傾向を探り、予測しながら、 個々が自由に暮らせるように支援している。転倒リスクの高 い利用者には、ベッド近くに椅子を固定し、手すり替わりにし たり、布団に鈴を付けたり、体がベッドからズレ落ちないよう に滑り止めを置く等して、工夫しながら支援している。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされることがないように注意を払い虐待防止に努めている。身体拘束委員会で毎月検討している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社協等主催する成年後見制度及び権利擁護についての研修に参加したり伝達講習で勉強している。必要があれば、希望に添えるよう準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、事業所のケアに関する考えや、取り組み、退去、重症化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置したり、ご家族、来所時や家族会等で常に問い掛け何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。また毎月の業務改善委員会・運営推進会議や管理者会議で検討している。 (外部評価) 毎月、家族には、薬代・おむつ代の実費分を持参してもらうことにしており、その際を捉えて、利用者の近況を報告したり、家族の要望を聞いたりしている。家族からは、利用者の状態をみて、手すりの設置の希望等がある。季刊誌「この瓦版」を発行して、活動内容を報告している。年2～3回家族会を行っており、行事や食事会と合わせ開催している。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			運営に関すること等、日頃より職員の声に耳を傾け月1回の業務改善委員会や管理者会議で情報交換や検討会を行っている。また安寿会の幹部の方々が、昼食(月2回程度)を兼て職員や利用者の声に耳を傾けて下さっている。	
			(外部評価)	
			希望する休みが取れるよう勤務調整している。又、連続して7日間のリフレッシュ休暇が取れるようになっている。	現場職員の声を聞きながら、継続して仕事ができる職場環境づくりに工夫を重ねていってほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			国家資格の有無等を考慮した給与を設定している。事務長・所長は、2回以上の面談を行い意見を聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修ファイルを用意して希望研修を受けやすい環境を整えている。また勉強会の計画をたて月1回の勉強会・外部研修(年1回)等及び伝達講習を行っている。不参加の非常勤には、自宅で勉強してもらえる様資料を用意している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			松山市地域包括センター北条地区主催の松山市北条地域密着サービス連絡会議に参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			不安が軽減するよう傾聴し、アセスメント表を用い利用者の声・言動を書き綴り職員全員で取り組み情報の共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が求めるものを理解して不安が解消できるよう受け止 める努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 相談時、本人やご家族の思いや状況等確認し、主治医の継 続や訪問歯科の利用等、必要なサービス利用も含めて対応 に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 本人の思いを知り受け止めながら献立、洗濯等で生活の知 恵を教えてもらう等の場面づくりや声掛けを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事の開催や病院受診の時の同伴をお願いしたり、家族と の絆を大切にしている。要望に応じ電話使用して安心しても らう事もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の要望を家族に伝えて家族と一緒に墓参りしたりと、繋が りが継続できるよう支援に努めている。また予定通りに行けるよう体調 管理等に努めている。直接電話で話したり関係が途切れないように 努めている。 (外部評価) 「家に帰りたい」と希望する利用者について、家族と相談し て、自宅近くまでドライブすることを支援した事例がある。利 用者はたいへん喜んだようだ。調査訪問日には、家族の来 訪があり、職員が仲に入って会話がスムーズにできるよう、支 援している様子が見られた。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がうまくいく様に共通点を見つけて多くの会話が持てるようにまたそれぞれの方の話が中心になるように介入して、会話しやすい雰囲気作りに努力している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりや必要とする付き合いを大切にしている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族から、今までの生活歴などを聞き取ったり日常の言動に耳を傾け、意向が反映できるよう努めている。また一人ひとりの細かい状況及び思いや意向を把握するためにアセスメント表を作成し検討している。(ケアマネ・ホーム長による定期的及び必要時相談に応じている)	
			(外部評価) 日々の経過記録に、利用者の言葉や様子を記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) なじみの家具、鉢植え、写真、仏壇等を持参してもらい、今までの生活環境の継続に努めている。これまでの経過等、担当ケアマネや担当看護師・介護士から情報を得て把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人ひとりの声に耳を傾けながら、心身の状態を把握し満足してもらえるように努力している。希望があれば、実行出来るように環境を整えたり、発言しやすい雰囲気作りに努力している。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者や家族の要望を取りいれた介護計画を作成しケアを実践している。また定期的にモニタリングを行い本人・家族・職員間で検討や見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	
			(外部評価)	
			法人変更に伴い、系列グループホーム内で記録等の書式の統一に取り組んでいる。家族、利用者の生活の意向を聞き、医師、職員の意見を採り入れて介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングと計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
			個別のファイルに日々の暮らしの様子や発言した言葉や実践後の結果を記入している。状態が変化した場合や工夫・アイデアを実践に反映させたい時は、個人別伝達簿を利用し情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			医療連携体制を生かして、その利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			近隣の住民や支所・民生委員・保育園・小学校へ年4回発行の「瓦版こうの村」や行事案内を配布して交流の機会を設けている。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人や家族が希望する医師をかかりつけ医としている。定期的受診訪問診療月2回実施。通院については、家族同伴の受診をお願いしている。ただし緊急時は、職員が同伴する。主治医と他の医療機関は、診療情報提供書を通じて情報交換している。	
			(外部評価)	
			入居後は、訪問診療可能な協力医で診てもらうことを希望する利用者、家族が多い。入居後には、利用者の生活の様子をみながら、医師とも相談して薬の見直しを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			利用者に普段と違う変化があればその都度看護師に報告し異常の早期発見・早期治療に結びつくよう努力している。また適切な助言により看護・介護を提供する努力をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入院時には、介護要約を作成し利用者の方が安心して治療に専念できるよう努めている。また頻回に面会して関係者から情報を収集し本人や家族の希望に考慮しながら早期退院できるように検討している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			重症化した時、ご家族、医師と相談できるようにしている。今後も事業所の出来ること出来ないことを明確にして家族と共に考えて行きたい。	
			(外部評価)	
			法人変更に伴い、新たに重度化した場合における対応に係る指針を作成し、24時間協力医の往診や相談体制を確保している。現在、利用者家族から看取りの希望があり、今後は、家族の宿泊や食事も支援する予定がある。職員は、支援実施に向けて勉強会を実施したり、外部研修等を受けて勉強をしている。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を実施し、対応できるよう努力している。また対応・手当てのマニュアル用意している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回夜間・昼間想定避難訓練を実施している。また運営推進委員の方・地域の方・家族の方にも協力してもらえるよう連絡網・協力内容を明確にして訓練に参加してもらっている。10月に地震避難訓練のシュミレーションを行った。 (外部評価) 今年度は、避難訓練時に放水訓練を体験した。地域の方の参加もあり、様子を見て「安心した」と感想があった。現在、備蓄は、母体病院、系列施設に準備されているが、今後は、事業所にも置く予定がある。地元の職員もおり、いざという時には、職員の家族も協力してくれるようになっている。事業所は地域の避難場所になっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) いかなる時も自尊心、プライバシーを損ねない対応に心がけている。また不安時、興奮時には、寄り添い傾聴、受容するよう努力している。(場合により距離を置いて見守ることもある。) (外部評価) 「帰りたい」気持ちが強い利用者について、歌を歌ったり散歩したりしている時には気持ちが落ち着くことが解り、職員は様子を観察しながら、隣りに座って一緒に歌う等して支援している。家族が遠方のため、来訪が少ない利用者がさみしい思いをしないように、必要時には職員がそっとそばに居るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できるよう疑問符で問い掛けたり、表情で汲み取るよう努力している。また希望が、実現できるよう、家族に協力をしてもらったり職員間で声掛けをしながら満足してもらえるよう努力している。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人ひとりのペースを優先し、1日1日が充実できるよう起床 時間、就寝時間、食事時間、入浴時間等本人の希望に合わ せられるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 服選びを手伝ったり好みのものが身に着けられるよう家族に 伝え買ってきて頂いたりしている。また家族の協力を得て理・ 美容院へ行ったり、施設内でカットして頂いたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みを聞きメニューに取り入れている。また畑で採れた野菜 が、食卓を飾り、話が盛り上がることもあり楽しく食事ができて いる。準備や後片付け等利用者のレベルに合わせてワゴン・ トレーで下膳してもらっている。 (外部評価) 利用者に合わせて食事形態を工夫している。調査訪問時、 片麻痺がある利用者には、食べやすいように食器を支えたり して自分で食べられるよう支援していた。又、ミキサー食の利 用者には、メニューを説明していた。食後には利用者がテー ブル拭きをしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスを考え、体調に合わせた食事量にしており摂 取量の少ない方には、無理に強いせず少量ずつ頻回に勧 めたり、栄養補助食品を勧めている。また好みの飲料を聞き ながら水分を勧め、水分量の少ない方は、職員が意識でき るようにチェックしたりペットボトルを準備し、利用者の方が、 いつでも摂取出来るよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎回声掛けをして、習慣づけて清潔の保持に努めている。 義歯が十分洗えない方や残存歯があり磨き残しがある場合 には介助している。また義歯・歯ブラシ・コップ等は、週1回 洗浄剤に浸けて消毒したり、日光消毒して清潔を保つ努力 をしている。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄パターンを把握し誘導し失敗が減るよう自立に向けた支援を行っている。夜間は、安眠・安全を優先してPTトイレ使用している方もいる。	
			(外部評価)	
			毎月カンファレンス時には、排泄の自立以外に、家族の支出を抑えることやゴミ削減という視点からも、排泄支援の方法を見直している。職員は、排泄パターンを把握し、予測しながら排泄の声掛けを行っていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			個々の好みや心身の状態に合わせた食事療法・運動療法・薬物療法に努めて対応している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			併設のデイサービスの大浴場を使用し2～3人で入浴できる。また個々の希望に合わせ個室を端座位が出来ない方は安全に保清が出来るようシャワー浴を実施している。	
			(外部評価)	
			現在、事業所の風呂の水漏れのため、系列デイサービスで入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
			個々の入眠状況に合わせ支援している。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
			(自己評価)	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアル・チェック表を作成し指示通りの服薬が出来るように支援している。また日常服用している薬の効果・目的・副作用が、理解できるように、処方箋、文献で把握出来る様にしている。臨時薬が出た場合は、申し送りや伝達簿で把握出来る様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や経験を活かした(針仕事・食事の下ごしらえ・洗濯物たたみ等)趣味活動の参加等で張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の体調を考慮し希望を聞きながら、中庭で昼食を摂ったり散歩やドライブに出かけたり面会時に家族に要望を伝え外出をお願いすることもある。 (外部評価) 庭にテーブルと椅子を出して食事したり、お茶を楽しんだりしている。車を使つての外出の機会としては、運転ができる職員が少なく、車椅子の利用者が多い現状があり、4月の花見以降は全員での外出の機会を持っていない。少人数での外出の機会も少ない現状がある。さらに、利用者の希望に沿った支援が実践できるような体制に向けた取り組みに工夫してほしい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小銭は自己管理している方もいる。欲しい物があれば一緒に出かけ希望のものを買っている。(近所のスーパー・出張中山物産展等)	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば家族や大切な人への電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう便箋・封筒等準備している。	

自己 評価	外部 評価		実践状況	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			リビングには、観葉植物や季節の花を飾り心地よい音楽を流したりまた玄関から庭が見えるよう椅子を置いて居心地よく過ごせるように工夫している。趣味活動で作成した俳句や短歌、習字、塗り絵などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			窓の外は田園風景が広がっており、調査訪問日には、外を眺めながら「雨が降って今日は暗いな」等と会話していた。日めくりカレンダーを毎日めくることが役割になっている利用者があり、日めくりの修繕も行ってくれている。机・椅子の配置は、利用者間の関係性等を踏まえて配慮している。新聞を広げて読む利用者には、大きい机の席を用意する等、席順に配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			使い慣れた馴染みの物を置き利用者の方が穏やかに過ごせる雰囲気作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			仏壇を持ち込んでいる利用者は、毎日水を替え手を合わせている。自分が作った陶芸作品や俳句、習字等を掲示している方や家族の写真や好きな花を飾っている方がいる。「亡くなったご主人といつも一緒にいたい、寂しい」思いの利用者には、小さな箱に写真とお供えを入れて、持ち運べるようにしており、利用者は喜んでいようだ。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			利用者の状態に合わせて手すりをトイレ廊下などに設置、安全確保と自由への配慮に努力している。	